

三 結婚記念日のミサ

146

結婚二十五年、五十年、六十年といった特別の結婚記念日には、ローマ・ミサ典礼書に掲げる祈願を伴う固有のミサ（『ミサ典礼書』¹⁰²⁴ページ「種々の機会のミサ」の十三「結婚記念日」）をささげて、秘跡を受けたことをとくに記念することが望ましい。

147

ことばの典礼では、典礼注記に従って、付録一（137ページ以下）から、あるいは種々の機会のためのミサの朗読箇所中の、神への感謝のためのミサの朗読箇所（カトリック中央協議会事務局編「教会暦と聖書朗読」付録Ⅲ参照）から選ぶことができる。

148

福音朗読の後、司祭は聖書に基づく説教の中で、キリスト者の生活にとつての結婚の秘義と恵みを明らかにする。ただし、それぞれの事情をよく考慮する。

149

続いて司祭は、夫婦が沈黙のうちに祈るよう招き、結婚生活を清く生きぬく決意を神の前で新たにしよう、たとえば次のように勧める。

司 ○○○○さん、○○○○さん、お二人は、ご自分たちが固いきずなで結ばれた結婚

を記念する日にあたり、かつて主の前でかわされた約束を新たにしたいとお望みます。この約束が神の恵みによって固められるよう、祈りましょう。

150 夫婦は沈黙のうちに決意を新たにする。

151 夫婦がはっきりわかるように決意を新たにすることを望む場合は、以下の形式で行う。

夫 神よ、あなたを賛美します。あなたの恵みによって、わたしは○○○○を妻としました。

妻 神よ、あなたを賛美します。あなたの恵みによって、わたしは○○○○を夫としました。

夫婦 神よ、あなたを賛美します。あなたは順境にあつても逆境にあつても、わたしたちとともにいてくださいました。わたしたちを助け、互いの愛を忠実に守りぬくことが出来るようにしてください。あなたがご自分の民と結ばれた契約のよいあかし

となることができますように。

司

神が生涯を通してお二人を守つてくださいますように。そして、逆境にあつては慰めを与え、順境にあつては助けとなり、お二人の家庭を祝福で満たしていただきますように。

わたしたちの主イエス・キリストによつて。

一同

アーメン。

152

指輪の祝福

記念の品として新しい指輪を贈ることができる。その場合、司祭は次のような祝福の祈りを唱える。

司

神よ、○○○○と○○○○の愛を✦祝福し、聖なるものとしてください。

結婚○年を記念して贈るこの指輪を忠実のしるしとする二人が、互いの愛といただいた秘跡の恵みを思い起こしますように。

わたしたちの主イエス・キリストによつて。

一同

アーメン。

または

司 神よ、この指輪を **✠** 祝福してください。

これを身につける者が互いに忠実を守り、

あなたの平和とみ旨のうちにとどまり、

つねに互いの愛をはぐくむことができますように。

わたしたちの主イエス・キリストによつて。

一同 アーメン。

153

続いて通常どおり共同祈願を唱えるか、以下に掲げるような祈りを唱える。()のことは状況によつて省くことができる。

司 全能の父である神は○○○○さんと○○○○さんを導き、夫婦の愛と忠実(そして恵みとして授けられた子ども)をとおして、救いの歴史を明らかにすることを望みになりました。神のいつくしみを願つて祈りましょう。

先唱 聖なる父よ、今日、結婚〇年を祝うこの二人を強め、あなたの祝福で満たしてください。

一同 アーメン。

先唱 神よ、あなたは永遠の昔から、夫婦として神の似姿に近づくよう招いてくださいました。二人がいただいた(秘跡の)恵みをいつも思い起こし、あなたの招きにこたえることができますように。

一同 アーメン。

先唱 神よ、あなたは摂理によって、信じる者が日々の生活の経験を通してキリストの秘義にあずかるよう導いてくださいます。二人がキリストを信じ、キリストに従って生きることができるようになります。

一同 アーメン。

先唱 神よ、すべての夫婦が、世にあってあなたの愛をあかしする者となることができますように。

一同 アーメン。

司 いくくしみ深い神よ、

あなたのはからいのうちに、家庭は支えられています。

すべての家庭が聖家族の模範にならない、

あなたとともに生きる喜びを分かち合い、

終わりにあなたをたたえることができますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同 アーメン。

154

感謝の典礼は以下の部分を除くほかは、すべてミサの式次第に従う。

奉納のとき、夫婦はパンおよびぶどう酒と水を祭壇まで運ぶことができる。

155

「主の祈り」を唱えた後、副文を省き、司祭は夫婦に向かって両手を広げて次の祈りを唱える。

司 すべてのももの造り主である神よ、あなたを賛美します。

あなたは初めに男と女を造り、

いのちと愛をともしにして生きるようにしてくださいました。

わたしたちはあなたに感謝をささげます。

あなたは、○○○○と○○○○が家庭をつくることを祝福し、
キリストと教会の一致の姿を示すようにしてくださいました。
今日、いつくしみをこめて二人を顧みてください。

喜びのときも、悩みのときも、

心を一つにしてともに歩んできた二人が、

結婚の誓約を新たにし、愛をはぐくみ、家族のきずなを強め、
いつもあなたの祝福に包まれて生きることができますように。

わたしたちの主イエス・キリストによつて。

一同
アーメン。

156 「主の平和がいつも皆さんとともに」を唱えた後、夫婦と列席者一同はふさわしい方法で互いに平和のあいさつをか
わすこともできる。

157 夫婦は両形態の拝領をすることが勧められる。

ミサの終わりに司祭は通常の形式で、あるいは、たとえば以下に掲げるようなより荘厳な形式で、夫婦と列席者を祝福する。

司 皆さん、神の祝福を願って祈りましょう。

続いて司祭は夫婦の上に両手を差し伸べて唱える。

司 全能の父である神が、その喜びをお二人に与えてくださいますように。

一同 アーメン。

司 神のひとり子がいつくしみを示し、いつもお二人とともにいてくださいますように。

一同 アーメン。

司 聖霊が豊かに注がれ、お二人の心を愛で満たしてくださいように。

一同 アーメン。

司 全能の神、父と子と聖霊の祝福が **✠** 皆さんの上にありますように。

一同 アーメン。

付録

一 聖書朗読箇所

ミサによる結婚式とことばの祭儀による結婚式では、以下の箇所を用いることができる。少なくとも一つの朗読は、つねに結婚に直接ふれるものを選ぶようにする。このような朗読には*印をつけてある。

旧約聖書

- * (a) 創世記 1・26―28、31 a 男と女に創造された
- * (b) 創世記 2・18―24 二人は一体となる
- * (c) 創世記 24・48―51、58―67 イサクは、リベカを愛して、亡くなった母に代わる慰めを得た
- * (d) 箴言 31・10―13、19―20、30―31 主をおそれる女こそ、たたえられる
- * (e) 雅歌 2・8―10、14、16 a、8・6―7 a 愛は死のように強い
- (f) エレミヤ 31・31―32 a、33―34 a わたしはイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ
- * (g) トビト 7・6―14 子よ、天の主がわれみと平安のうちにあなたがたを守ってください
- * (h) トビト 8・4 b―8 わたしたちがともに年老いていくことができるようにしてください
- * (i) シラ 26・1―4、13―16 いと高き天に輝く太陽のように、よく整えられた家にいる妻は美しい

使徒書

- (a) ローマ 8・31 b-35、37-39 だが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができましょう
- (b) ローマ 12・1-2、9-18 (または 12・1-2、9-13) 自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとしてささげなさい
- (c) ローマ 15・1 b-3 a、5-7、13 キリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい
- (d) 一コリント 6・13 c-15 a、17-20 あなたがたの体は、聖霊が宿ってくださいる神殿である
- (e) 一コリント 12・31 } 13・8 a 愛がなければ、無に等しい
- (f) エフェソ 4・1-6 体は一つ、霊は一つ
- (g) * エフェソ 5・2 a、21-33 (または 5・2 a、25-32) この神秘は偉大です。わたしは、キリストと教会について述べているのです
- (h) フィリピ 4・4-9 平和の神はあなたがたとともにおられます
- (i) コロサイ 3・12-17 これらすべてに加えて愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきざなです
- (j) ヘブライ 13・1-4 a、5-6 b 結婚はすべての人に尊ばれるべきである
- (k) * 一ペトロ 3・1-9 皆心を一つに、同情し合い、兄弟を愛しなさい
- (l) 一ヨハネ 3・18-24 行いをもって誠実に愛し合おう
- (m) 一ヨハネ 4・7-12 神は愛
- (n) 黙示録 19・1、5-9 a 小羊の婚宴に招かれている者たちは幸い

答唱詩編(第一朗読にあうものを選び、適当な節を歌う)

- (a) 詩編 33 (典) 46 「神の注がれる目は」、(典) 47 「神の注がれる目は(2)」
- (b) 詩編 34 (典) 128 「主を仰ぎ見て」
- (c) 詩編 103 (典) 93 「心を尽くして神をたたえ」
- (d) 詩編 112 (典) 99 「しあわせな人」
- * (e) 詩編 128 (典) 103 「しあわせな人(2)」
- (f) 詩編 145 (典) 63 「神は恵みとあわれみに満ち」
- (g) 詩編 148 (典) 20 「いのちあるすべてのものは」

アレルヤ唱(福音朗読にあうものを選ぶ。四旬節にはアレルヤをひかえ、詠唱の旋律で歌う)

- (a) 一ヨハネ 4・7 b 「愛する者は皆、神から生まれ、神を知っている」
- (b) 一ヨハネ 4・8 b + 11 「神は愛。互いに愛し合おう。神が愛したように」
- (c) 一ヨハネ 4・12 「愛し合うなら神はわたしたちのうちにとどまり、神の愛がわたしたちのうちで全うされる」(典) 270 (55)
- (d) 一ヨハネ 4・16 b 「愛にとどまる人は神のうちにとどまり、神もその人のうちにとどまる」(典) 282 ()

福音書

- (a) マタイ 5・1 - 12 a 喜ばなさい。大いに喜ばなさい。天には大きな報いがある
- (b) マタイ 5・13 - 16 あなたがたは世の光である
- * (c) マタイ 7・21、24 - 29 (または 7・21、24 - 25) 岩の上に自分の家を建てた人

- (j) ヨハネ 17・20―26(または 17・20―23) 彼らが完全に一つになるように
- (i) ヨハネ 15・12―17 互いに愛し合いなさい。これがわたしのおきてである
- (h) ヨハネ 15・9―12 わたしの愛にとどまりなさい
- (g) ヨハネ 2・1―11 イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行った
- (f) マルコ 10・6―9 二人はもはや別々ではなく、一体である
- (e) マタイ 22・35―40 これが最も重要な第一のおきてである。第二も、これと同じように重要である
- (d) マタイ 19・3―6 神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない

二 結婚の祝福

(一)

1 新郎新婦の一方あるいは二人ともが拝領をしないなら、招きのことばの()の部分省く。

祈りの最後の部分で、たとえば新郎新婦が高齢の場合のように、状況からいってふさわしいと思われるなら、()の部分省くことができる。

2 司祭(あるいは助祭)は手を合わせて、一同を祈りに招く。

司 今日、神の前で誓いをおこなったお二人が、(キリストの御からだとおん血にあずかり、)互いの愛によって固く結ばれるよう、神に願ひませう。

一同はしばらく沈黙のうちに祈る。

続いて司祭(あるいは助祭)は両手を新郎新婦の上に差し伸べて祈りを続ける。

司
聖なる父よ、

あなたはご自分の似姿となるようにお定めになった人間を、

男とおんなとおと女にお造りになり、

夫とおつと妻が心も体も一つに結ばれ、

世にあつてその使命を果たすようにしてくださいました。

すべての人を愛される神よ、

あなたはご自分の民と結ばれた契約が、

夫婦の愛のうちにかたどられるようお望みになりました。

(秘跡の恵みを受けて)結婚のきずなを結んだ二人のうちに、

キリストと教会の愛の神秘が明らかになります。

○○○○と○○○○の上(うへ)にいつくしみの手を差し伸べ、

二人の心こころに聖霊せいれいの力ちからを注そそいでください。

ともにおられる神かみよ、

二人ふたりがあなたの愛あいのたまものに満みたされて、
互たがいに仕つかえ合うこととおして心こころも思おもいも一ひとつになりますように。

いのちの源みなもとである神かみよ、

この新あたらしい家庭かていが、

二人ふたりの信仰しんこうによつてキリストの福音ふくいんを生いきる場ばとなりますように。

神かみよ、

〇〇〇〇(新婦の姓名)を祝しゆく福ふくで満みたしてください。

妻つまとして(また母として)の務つとめを果はたし、

清きよらかな愛あいでその身みを飾かざり、

あたたかい家庭かていを築きずくことができますように。

神よ、

○○○○(新郎の姓名)を祝福で満たしてください。

夫として(また父として)の務めを果たし、

寛大な心と堅固な意志で家族を守り、

神の国の建設に尽くすことができますように。

聖なる父よ、

主の食卓に近づくこの二人に、

約束された天の祝宴にあずかる喜びをお与えください。

わたしたちの主イエス・キリストによつて。

一同
アーメン。

(二)

4 司祭(あるいは助祭)は手を合わせて、一同を祈りに招く。

司

皆さん、わたしたちの祈りをささげ、神ご自身がいつくしみを注ぎ、(結婚の秘跡の)恵みに満たされた○○○○さんと○○○○さんを守ってくださいるよう、お二人の上うへに心こころから神かみの祝福しゅくふくを願ねがいましょう。

一同はしばらく沈黙のうちに祈る。

5

続いて司祭(あるいは助祭)は両手を新郎新婦の上に差し伸べて祈りを続ける。

司

聖なる父よ、

あなたは世のすべてのものを造り、

男おとこと女おんなをご自分じぶんの似姿にすがたとして創造そうぞうし、

あなたの祝福しゅくふくで豊かゆたになることをお望のぞみになりました。

今日きょう、結婚けっこんのきずなで結むすばれた二人ふたりのために祈いのります。

神よ、

○○○○と○○○○の上に、

あなたの祝福を豊かに注ぎ、

聖霊を送って彼らの心を燃え立たせてください。

結婚がもたらす恵みによって成長し、

愛に満ちあふれる家庭を築くことができますように。

神よ、

喜びのときにはあなたをたたえ、

悲しみのときにはあなたを求め、

苦悩のときにはあなたを頼みとし、

窮乏のときにはあなたの慰めを受けますように。

すばらしい友に囲まれて、天寿をまっとうし、

あなたの国に迎え入れられますように。

二 結婚の祝福

一同
アーメン。
わたしたちの主しゅイエス・キリストによつて。

三 共同祈願(例文)

共同祈願の前文、意向、後文は状況に応じて自由に作ることが望ましいが、次にあげるものの中から、ふさわしいものを選ぶこともできる。

新郎新婦が二人とも信者の場合は、(二)の共同祈願を唱えることができる。

一同の答えの部分は、共同祈願に慣れていない列席者を考慮して、沈黙の祈りに代えることもできる。

(一)

司

人類じんるいの造り主つくぬしであり、救いすくのわざを實現じつげんされる神かみに向かむって、今日きょう、結婚けっこんの契約けいやくを結むすんだ○○○○さんと○○○○さんの上に、豊かな恵みめぐみと祝福しゅくふくを願ねがいましょう。

先唱

新しい門出かどでにあたり、神かみが二人ふたりの上に豊ゆたかな祝福しゅくふくを与あたえ、これからの道みちを守まもつてくださいますように。

一同

神かみよ、わたしたちの祈りいのちを聞き入き入れてください。

先唱 二人の愛と信頼がますます深まり、多くの人に喜びと平和をもたらしものとなりますように。

一同 神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

先唱 結婚生活をとおして、二人が神のいのちといつくしみを悟り、神の愛に忠実にこたえるものとなりますように。

一同 神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

先唱 どのような試練に出合っても、互いに支え合い、生涯ともに、誠実に生きることができますように。

一同 神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

先唱 二人が順境にあっても逆境にあっても、いつも神を信頼し、互いに思いやりをもつて助け合うことができますように。

一同 神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

先唱 二人が愛に支えられた家庭の一致と喜びを人々に示すものとなりますように。
一同 神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

両親あるいはその代理人

結婚した二人が愛と信頼に満ちた家庭を築き、恵まれる子どもをまことの幸せに導くことができそうです。

一同 神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

証人

今日、神によつて結ばれた○○○さんと○○○さんに、神の祝福が豊かにありますように。

一同 神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

新郎新婦

わたしたちが育てられた家庭と両親、兄弟(姉妹)に対して、いつも変わらない感謝と愛の心を保つことができますように。

一同 神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

司 わたしたちの助けであり、力である神よ、

あなたはお定めになったことを

摂理をとおして成し遂げられます。

○○○○と○○○○を結ばれたあなたの愛が、二人の一致を強め、
愛の実りを結ばせてくださいますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同
アーメン。

(二)

司
キリストは結婚を秘跡にまで高め、夫婦が恵みと愛のうちに家庭生活を営むよう祝福してくださいました。今、結婚の契りを結んだ○○○○さんと○○○○さんの上に、神の豊かな恵みと祝福を願いましょう。

先唱
神によって結ばれた二人を祝福し、秘跡によって聖なるものとしてくださいますように。

一同
神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。
先唱
キリストと教会の愛と一致にかたどられた夫婦を、神の霊によって導いてくださいますように。

一同 神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

先唱 今日、結ばれた二人が、隣人には親切と寛大な心を示し、キリストの愛に支えられ

た一致と喜びを示す家庭を築くことができますように。

一同 神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

両親あるいはその代理人

二人がキリストのうちにあつて愛と信頼に満ちた家庭をつくり、恵まれる子どもには信仰の喜びを伝える親となりますように。

一同 神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

証人

新しい家庭の上に神の豊かな祝福が注がれ、神の愛を人々に示すものとなりますように。

一同 神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

新郎新婦

いのちの豊かさを秘跡をとおして授けられたわたしたちが、神の愛を人々にあかしすることができますように。

一同 神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

新郎新婦

わたしたちが恩人や友人に対していつも感謝の心を持ち、人々に開かれた家庭をつくることができますように。

一同 神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

新郎新婦

神の摂理によって結ばれたわたしたちを神が祝福し、聖霊の恵みによってわたしたちの愛を深めてくださいますように。

一同 神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

新郎

神のはからいによる結婚の秘跡と家庭の尊さを自覚し、いつも清い愛をもって妻を愛することができまうように。

一同 神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

新婦

豊かな心をもって、家庭に聖なる愛の雰囲気を保ち、夫を愛することができます

ように。

一同 神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

司 愛の泉である神よ、

あなたの恵みによって夫婦の愛と家庭の一致は強められます。

今、み前で契りを結んだ○○○○と○○○○が、

聖霊の働きによって強められ、

愛の豊かさを人々に伝えることができますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同 アーメン。

四 婚約式

1 キリスト者の夫婦は子女の教育のほかに、その務め、およびその使徒職においてよりよく結婚を準備できるように、婚約した子どもたちを助けることに責任がある。

それゆえ、キリスト者の婚約式は、双方の家族にとって何らかの式と共同の祈りをもって行われることが望ましい。こうして、彼らが幸せに満ちた歩みを始め、結婚の日を迎えるよう、神の祝福を願うのである。そのため、式は状況に応じて手を加えてもよい。

2 婚約式が双方の家族だけの内輪で行われるときは、親の一人が司式することができる。しかし、司祭または助祭が列席しているなら、その人が司式するほうが望ましい。その場合は、結婚式を行っているのではないということが、列席者にはつきりとわかるようにする。

3 したがって、以下の式は、親、司祭、助祭、あるいは信徒のいずれもが司式することができる。司式者は、式のおもな要素と儀式の構造を守ったうえで、状況に応じて個々の部分に手を加えてもよい。

4 この式は、すでに婚約をすませた二人が、結婚の準備のために来たときにも行うことができる。ただし、婚約式または婚約者の特別の祝福は、決してミサと結びつけてはならない。

用意するもの

・ 聖書、聖歌集、贈り物(たとえば指輪)など

5 式の初めにあたり、ふさわしい聖歌を歌う。歌わない場合は、オルガン演奏などに代えることもできる。

6 あいさつ

司式者は十字架のしるしをして、たとえば次のようなことばで列席者にあいさつする。

司 父^{ちち}と子^こと聖^{せい}霊^{れい}の^なみ名^なによつて。

一同 アーメン。

7 続いて司式者は、たとえば次のような勧めのことばを述べる。

司
皆さん、神の恵みはつねに必要です。とくに、新しい家庭をつくる準備をしているお二人にとって、なおさら恵みと助けを願うことはふさわしいことです。お二人が互いの理解と尊敬を深め、さらに誠実に愛し合い、ともに祈ることによって、聖なる結婚の日を迎えることができるよう、神からの祝福を願い求めましょう。

神のことは

続いて列席者の一人あるいは司式者が、たとえば次のような聖書の箇所を朗読する。()の聖書の表題は状況に応じてふさわしい表現に変えることができる。

(ヨハネによる福音のことばを聞きましょう。)

「そのとき、イエスは弟子たちに言われた。『父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、あなたがたも、わたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。』

これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがた

の喜びが満たされるためである。わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。」

(ヨハネ 15・9-12)

または

(コリントの信徒たちにあてた使徒パウロのことばを聞きましよう。)

「皆さん、」愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう、わたしたちの知識は一部分、預言も一部分だから。完全なものが来たときには、部分的なものも廃れよう。幼子だったとき、わたしは幼子のように話し、幼子のように思い、幼子のように考えていた。成人した今、幼子のことを棄てた。わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔とを合わせて見ることになる。わたしは、今は一部しか知らなくとも、そのときには、はっきり知られているようにはっきり知ることになる。それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三

つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

(一コリント13・4-13)

または

ホセア2・21-25 わたしはあなたと契りを結ぶ

フィリピ2・1-5 同じ思いとなる

9

答唱詩編

典礼聖歌63「神は恵みとあわれみに満ち」、あるいはほかのふさわしい聖歌を歌うことができる。歌わない場合は以下の詩編を唱えるか、沈黙に代えることもできる。

先唱 あなたは恵みとあわれみに満ち、

怒るにおそく、いつくしみ深い。

その恵みはすべてのものに及び、

いつくしみは造られたすべてのものの上にある。

一同 主の恵みはすべてのものに及ぶ。

先唱 神よ、造られたすべてのものはあなたをたたえ、

あなたにしたが従う人は感謝して歌う。
 神を待ち望むすべてのものに、

いのちのかてを豊かに恵まれる。

一同 主の恵みはすべてのものに及ぶ。

先唱 神の行われることはすべて正しく、

そのわざはいつくしみに満ちている。

助けを求めるすべての人、

心から祈る人のそばに神はおられる。

一同 主の恵みはすべてのものに及ぶ。

(詩編145より)

10 司式者のことば

続いて司式者は、朗読した聖書の内容と関係づけながら、たとえば次のようなことばで当事者に語り、婚約期間をどのように過ごすべきか、また結婚の精神的な準備とは何かを語り、神の祝福を祈り求めるよう勧める。

婚約期間の過ごし方

司 ○○○○さん、○○○○さん、お二人は近い将来、結婚しようとしておられます。

いまは幸せな結婚をめざして二人でともに準備を進めるときです。ですから、この期間は希望に満ちた時期でもあり、厳しい面をもった時期でもあります。お互いに一生をともしることができかどうかを真剣に確かめ合い、最終的な決定を下さなければならぬ大切な時期なのです。

結婚の精神的準備

結婚の準備には、お二人の精神的準備が何よりも大切です。まず、結婚そのものの尊さと重大さを二人でともに考え、その尊さにふさわしい者となるよう、互いに高め合わなければなりません。そのためには、いまから、ヨハネによる福音に記されている、「友のためにいのちを捨てるより大きな愛はない」というキリストのことは深く考えなければなりません。

次に、お互いをよく知り合うよう努力しなければなりません。人生観、趣味、性格などを深く知り合うよう努め、実際に重要なことで互いに一致できるかどうかを確かめてください。また、互いに理解し認め合うように努力することも大切です。それは、相手の幸せのために自分を捨てることであって、結婚生活に欠くことのできない心構えです。

さらに、結婚が社会的な性格をもっていることにも心を留め、二人のことだけではなく、周りの人々のことを考え、家族の方や友人の皆さんとも和を保つよう努めてください。

神の祝福を求める

これから行う婚約の祝福は、このように重大な婚約期間をよく過ごすために必要な恵みを願う祈りです。

11

共同祈願(例文)

共同祈願の前文、意向、後文は状況に応じて自由に作ることが望ましい。次にあげる例文を用いることもできる。

司
神の導きを感謝して、○○○○さんと○○○○さんをはじめ、ご列席の皆さんのために祈りましょう。

先唱
二人が神の恵みによって、婚約期間をともに有意義に過ごすことができますように。
一同
神よ、変わらぬ愛をわたしたちに。

先唱
わたしたちの両親、兄弟(姉妹)、恩人、先輩、友人の愛と労苦に、神が豊かに報

いてくださいますように。

一同 神よ、変わらぬ愛をわたしたちに。

先唱 二人が「友のためにいのちを捨てるより大きな愛はない」というキリストのことはを、聖母マリアの取り次ぎによって、一生の指針とすることが出来ますように。
一同 神よ、変わらぬ愛をわたしたちに。

司 すべての愛の泉である神よ、

あなたのいつくしみ深いはからいによって知り合い、

いまは結婚(の秘跡)に備えてあなたの恵みを願う二人(○○○○と○○○○)が、

いつも互いに尊敬の念を深め、

真心をこめて愛し合うことが出来ますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同 アーメン。

12

地域の習慣に従って、婚約のしるしとして、たとえば証書への署名を行ったり、贈り物(たとえば指輪)の交換など
をすることが出来る。

13

司式者は贈り物を次のように祝福することができる。

司 互いに与え合うこの贈り物（あるいは贈り物の名前）をとおして、約束をかわした二人が、喜びのうちに結婚の日を迎えることができますように。

一同 アーメン。

14

祝福の祈り

続いて、司式者は手を合わせて次の祈りを唱える。（ ）のことは状況によって省くことができる。

司式者が司祭あるいは助祭の場合

司 すべての愛の源である神よ、

あなたのはからいによって、○○○○と○○○○は知り合い、

愛し合うようになりました。

結婚の（秘跡を受ける）準備をしながらあなたの恵みを求めるこの二人が、

あなたからの祝福✠に包まれて、

互いをより深く理解し、誠実に愛し合うことができますように。

一同
わたしたちの主イエス・キリストによつて。
アーメン。

司式者が司祭あるいは助祭以外の場合

司
神よ、あなたを賛美します。

あなたは○○○○と○○○○にあたたかいまなざしを注ぎ、
互いに愛し合うように彼らの心を導いてくださいます。

二人の心を強めてください。

信仰を保ち、すべてにおいてみ心にかない、

結婚の（秘跡を受ける）喜びを味わわせてくださいますように。

わたしたちの主イエス・キリストによつて。

一同
アーメン。

15 結びのことば

続いて司式者は式の結びとしてたとえば次のようなことばを述べる。

司 　　いつくしみ深い神がお二人のうちにとどまり、
その歩みを導き、愛のうちに固めてくださいますように。
一同 アーメン。

ふさわしい聖歌で式を終えることが望ましい。

五 日本の教会において留意すること

一 挙式の準備

キリスト者の結婚

1 結婚の秘跡は、結婚する人の信仰を前提としており、同時に彼らの信仰をより深め、はぐくむためにも重要な意味をもっている。したがって、挙式までの準備には十分な時間をかけるよう配慮する。この準備の中で、「キリストと教会の神秘に関する深い知識や神の恵みの意味とキリスト者の結婚に伴う責任について教えることは特に大切である」⁽²⁾。

堅信の秘跡とゆるしの秘跡

2 堅信の秘跡によって、信者はいつそう完全に教会に結ばれるものであるから、堅信の秘跡をまだ受けていないカトリック信者には、重大な妨げがないかぎり、結婚が許される前にそれを授けるようにしなければならない。また、結婚の秘跡を実り豊かに受けるために、準備の期間中に、ゆるしの秘跡を受けるよう勧めることが望ましい⁽³⁾。

洗礼を受けていない人との結婚

3 日本ではカトリック信者と洗礼を受けていない人との結婚が多い。司牧者は、とくに洗礼を受けていない人に、キリスト教の結婚理解、結婚式の意味などについて十分に教えるようにしなければならぬ。

婚約式

4 男女が結婚を決心した場合、結婚への固い意志の表明として婚約式を行うことができる。本書の付録に掲載した式次第は、式のおもな要素と構造を守ったうえで、状況に応じて工夫することができる。婚約式は、教会で行うことが望ましいが、他のふさわしい場所でも行うことができる。

婚約式の前に、司式者は当事者に結婚の妨げがないことを確かめておかなければならない。なお、婚約式は法的拘束力をもつものではない。

教会で婚約式を行う場合、司式者は状況に応じてふさわしい服装をする。教会以外の場所で行う場合も、婚約式が宗教的、社会的な意味をもつ式であることを示す服装をする。ただし、当事者ならびに列席者との調和を考慮しなければならない(たとえば家庭で簡素に行う場合など)。

式 の 選 択

5 司式者は、ミサによる結婚式を行うのか、ことばの祭儀による結婚式を行うのかを、結婚する人の状況をよく考慮して決めなければならない。また式の構成、とくに聖書朗読箇所と聖歌の選択、同意の表明の方法、指輪の交換の有無、結婚の祝福のことば、共同祈願の意向などについて事前に打ち合わせておく。なかでも、誓約のことばと共同祈願の意向は、新郎新婦が自分たちのことばで唱えることができるように指導することが望ましい。

列席者への配慮

6 日本の場合、結婚式には洗礼を受けていない人が多数列席する。司式者はこのことを考慮して、結婚に関する教会の教えをわかりやすく伝えるようにしなければならない。また、キリスト教の結婚式に列席したことがない人のために、当日の式次第やともに祈ることなどを印刷して配布することが望ましい。

また、場合によっては式の初めに、儀式中の注意事項を伝えたり、司式者を簡単に紹介するほうがよい場合もある。

挙式の間所

7 挙式の間所は、原則として小教区の聖堂あるいは修道院の聖堂である。カトリック信者同士、あるいはカトリック信者と他のキリスト教会で洗礼を受けた者との結婚式は、小教区の聖堂で行わなければならない。ただし地区裁治権者または主任司祭の許可があれば、他の教会あるいは礼拝堂で行うことができる。また、地区裁治権者の許可があれば、他のふさわしい場所でも結婚式を行うことができる。

カトリック信者と洗礼を受けていない人との結婚式も右の原則に準じて判断する。⁽⁵⁾

二 ミサによる結婚式

ミサによる結婚式の意味

8 結婚の秘跡はキリストと教会との一致と実り多い愛の秘義を示すものであり、この一致と愛は、ミサにおいてもっとも明らかとなる。したがって、カトリック信者同士の結婚式が、キリスト教生活全体の源泉であり頂点であるミサの中で行われ、キリストのからだに養われることによって相互の愛と一致を深めることは、まことに

ふさわしいことである。

おもな原則

9 結婚式をミサの中で行うときは、次の原則に従う。

- ① 典礼日の優先順位表（「典礼暦年と典礼暦に関する一般原則」参照）の(1)から(4)にあげられている日には当日のミサの式文を用いる。
- ② 主日と祭日は小教区全体のための司牧に向けられるべき日であるから、結婚式を主日と祭日の小教区の定刻ミサで行う場合は当日のミサの式文を用いる。朗読箇所も典礼季節を考慮し、原則として当日のものを用いる。ただし、当日のミサの他の朗読の内容と合うものを、本書の付録に記載されている結婚式のための聖書朗読箇所から一つ選ぶことができる。それは、結婚式に合わせたことばの典礼が結婚の秘跡そのものについて、また夫婦の責任について教えるために大いに役立つからである。
- ③ ①と②の場合も、結婚の祝福をミサの間に入れ、適当であればミサの結びの祝福として結婚式固有のものを用いることができる。
- ④ 主日と祭日であっても小教区の定刻ミサ以外であれば、本書のミサによる結婚式の式文を用いることができる。
- ⑤ 主日と祭日の小教区の定刻ミサであっても、特別な理由があれば（たとえば地方の教会でまれにしか結婚式が行われず、さらに司牧と宣教上、結婚式が主日や祭日に行われるほうがよい場合など）、例外としてミサによる結婚式の式文を用いることができる。
- ⑥ 他の日（週日、記念日など）にはつねにミサによる結婚式の式文を用いる。
- ⑦ 結婚式が待降節や四旬節、その他の償いの日に行われる場合、司式者は典礼季節固有の意味を考慮するよ

う新郎新婦に勧めなければならない。

祭服

10 ミサによる結婚式では、白、あるいはふさわしい色の祭服を着用する。

固有の入堂式

11 ミサによる結婚式では固有の入堂式を行う。このため開祭に際して、回心の祈り、あわれみの賛歌、栄光の賛歌を省く。

三 ことばの祭儀による結婚式

ことばの祭儀による結婚式の原則

12 事情によりミサによる結婚式を行うことができない場合は、ことばの祭儀による結婚式を行う。儀式の面だけを取り上げてみても、とくに洗礼を受けていない人が多数列席する場合、一般の人にとって理解しにくいミサを行うことは不適當と思われる。むしろ聖書朗読や祈願や説教などをよく選択して、列席者が理解しやすい式にするほうが司牧および宣教上、意味があるであろう。また、信者だけが聖体を拝領をするのも不自然である。

しかし、新郎新婦がミサの意味をよく理解して強く望む場合は、右にあげた種々の点を考慮して司式者が適當であると判断できれば、地区裁判権者の同意を得て、ミサによる結婚式を行うこともできる(たとえば、洗礼を受けていない人の側が、洗礼を間近にひかえた洗礼志願者である場合や列席者の大部分が信者である場合など)。

信徒が司式する結婚式

13 ローマ規範版の緒言25は教会法第一一二条に従って、「司祭および助祭が不在の場合、教区司教は事前に司教協議会の賛同を受け、使徒座の認可を得たうえで、結婚に立ち会うことを信徒に委任することができる」ことを定め、ローマ規範版には信徒が司式する結婚式の式次第が掲載されている。しかし、この件に関して日本カトリック司教協議会は、一九八三年度定例司教総会で、新教会法典の中で各司教協議会が決定すべき条項の検討をした際に、第一一二条についての許可を使徒座に申請しないこととした。この決定に従い、本儀式書には信徒が司式する結婚式の式次第は掲載されていない。

四 カトリック信者と他のキリスト教会で洗礼を受けた人との結婚式

14 ローマ規範版の緒言36にあるように、原則としてことばの祭儀による結婚式を行う。しかし、特別の事情があり、地区裁治権者の同意を得れば、ミサによる結婚式を行うことができる。他のキリスト教会で洗礼を受けた人が聖体を拝領することについては、原則として拝領するのはカトリック信者のみであることを相手によく理解させなければならない。他のキリスト教会で洗礼を受けた人に聖体を授ける場合は、教会法第八四四条第四項の規定に従う。

五 カトリック信者と洗礼を受けていない人との結婚式

15 原則としてことばの祭儀による結婚式を行うが、司式者が適当と認めた場合、地区裁治権者の同意を得たうえで、ミサによる結婚式を行うこともできる。

また、近年では外国人との結婚が増える傾向にあるため、キリスト教以外の宗教を信じている人との結婚についても配慮する必要がある。この場合、他の宗教を信じる相手の結婚観や宗教的な背景、また式で用いる言語や式の内容などについても事前によく話し合い、キリスト教の結婚式についての理解を求めなければならない。さらに、有効な結婚のために教会法上の手続きが必要な場合は、すみやかに対処しなければならない。

六 洗礼を受けていない人同士の結婚式

16 近年では、洗礼を受けていない人同士の結婚式が教会で行われる場合が多くなっているが、本儀式書は新郎新婦の両方あるいはいずれか一方がカトリック信者であることを前提として編集されている。したがって、洗礼を受けていない人同士の結婚式については、日本カトリック司教協議会宣教司教委員会編『日本のカトリック教会における非キリスト者同士の結婚式について』（一九九二年、カトリック中央協議会発行）を参照して準備を進める。

注

- (1) 第二バチカン公会議『典礼憲章』59 (*Sacrosanctum Concilium*)。
- (2) 教皇ヨハネ・パウロ二世回勅『家庭—愛—のちのきずな—（一九八一年十一月二十二日）』66 (*Familiaris consortio* : AAS 74 [1982] 159-162)。
- (3) 第二バチカン公会議『教会憲章』11参照 (*Lumen gentium*)。

- (4) 教会法第一〇六五条参照。
- (5) 同第一一八条参照。
- (6) 第二バチカン公会議「教会憲章」11参照。

カトリック儀式書

結婚式

一九九六年一月二十日発行

日本カトリック司教協議会認可

編集 日本カトリック典礼委員会

発行 カトリック中央協議会

東京都江東区潮見二一〇一一〇 日本カトリック会館内

〒一三五 〇〇三―五六三―四四一一

装幀 道吉 剛

印刷 株式会社精興社

定価 四〇〇〇円(本体三八八四円)

事前に当協議会事務局に連絡することを条件に、通常の印刷物を
読めない、視覚障害者その他の人のために、録音または拡大による
複製を許諾する。ただし、営利を目的とするものは除く。なお、点字
による複製は著作権法第37条第1項により、いつさい自由である。